大豊村開村に当りて

舘長　秋山正隆

昭利三十年三月三十一日を以て嶺東四ケ村の合併が成り茲に大豊村の実現を見るに至つた。合併迄の径路には幾多の迂余曲折は有つたにしても誠に目出度事である。旧地区の住民として幾十年来なじみ来つた村名を失う事は感慨無量のものがあるのは当然であるが、実を失うのでなく内容は発展的解消とも云うべきで敢て悲しむを要しないと思う

さて新村大豊村はぼう大な地積と二万三千有余の人口を有する県下最大の村である。合併の条件も必しも良好ではない。従つて今後の運営面に於ても相当の難事の予想せらるる事は衆人の一致する処である。即ち旧村には各々長き歴史と伝統があり、村民又各々その村固有の風習や思想を有することは当然である。之等の村民が今後独自の各種感情を固執せず、我田引水的の思想を去り、真に大局的見地より融合一体の精神に立脚せる認識を持つことが最も大切である。略言すれば人の和である。誠に天の利は地の利にしかず、地の利は人の和にしかずと、人の和こそ大豊村合併目的達成の根本条件である。

次には村当局にその人を得る事である。村執行部に於ても議会に於ても適材を得ることこそ最も肝要である。即ち時代的感覚を有し識見は勿論民主的思想を有し、民意を尊重し真に公僕として民衆の信頼を得る人格者でなくてはならぬ。独断固陋、権謀術数を事とするか如き或は不公正村治を闇取引するか如き輩は断然排除すべきである。

かくして村民の和と適当なる村当局とが融和合一の境地に立つ事に於て、合併の目的を達成し村の発展、村民の福利増進は期せらるるものと信ずるのである。

に対処し発展的解村をす
閉村式が本三十一日午後一時三〇分村役場会議室に厳粛に挙行された。
定刻、高木東豊永村長、豊永西豊永村長、北村天坪

大杉村

▼明治十二年公選戸長配置に際して

▼本山郷の杉村、小川村津家村、助藤村、高須村、川口に戸長役場が置かれた

▼明治二十二年町村制実施に当り杉村外八箇村組合より助藤村を除きまた川口村外七箇村組合より奥大田村

[illegible]村が合併し
[illegible]を創設した
[illegible]月一日
[illegible]併合し
[illegible]至る

[illegible]年七月十六日
を大杉村と改称
杉の大杉にあや
ので同日は民法
年の記念日に当
の日を期したも
月卅一日　閉村
村六十七年の村
の村行政に尽力
役の諸先輩を
端に供したい
東本山村に至

る迄の村（現部落）の戸長[illegible]
その他について[illegible]
料なく、また川口村外[illegible]
簿についても記録を見出し
得ないが杉、橋本勝茂翁の記録により杉村の戸長が次の通り判明した。

▼杉村外八箇村組合
戸長名
①楠島　源吉
②杉本　茂芳
③佐々木浜五郎
④朝倉　端一
⑤浜田水太郎
⑥窟田（不詳）
⑦大松　充盛

▼川口村外七箇村組合
戸長（二選）森　喬木
（その他の人は不明）

【大杉村閉村記念（昭30、3、31）】

★☆★

後列　飯田　正福　永野　政高　森下　正芳　宮内　滋美　小笠原武利　秋山　重実　内田長五郎　飯田　俊広

中列　朝比　豊晴　宮内　正章　豊永　与吉　松村　唯可　徳弘　則重　田辺　稔　森下　光栄　門脇　盛恒　藤田　要

前列　鈴木　友茂　野島　信豊　原　時正　秋山　秀実　森　末永　丁野　武茂　杉本　正盛　橋本　晴喜　飯田　利男　秋山　隆伝　秋山　正隆

★☆★

大杉村 歴代村長名

◎自明治廿二年五月十六日　至〃廿六年五月十七日　大松　充盛

◎自〃廿六年五月廿四日　至　卅年五月廿三日　大松　充盛

◎自〃三十年五月廿七日　至　〃七月十日　（病気退職）大松充盛

◎自〃三十年八月十一日　至〃三十二年二月二日　（病退）秋山勝五郎

◎自〃三十二年四月一日　至〃三十三年三月卅一日　森　喬木

◎自〃卅三年四月二日　至〃卅七年四月一日　佐々木浜五郎

◎自〃卅七年四月六日　至〃卅七年八月十六日　大松　充盛

◎自〃卅七年八月十七日　至〃四一年八月十六日　佐々木浜五郎

◎自〃四一年八月廿七日　至〃四四年九月四日　門脇　恒実

◎自〃四四年九月廿九日　至大正元年十二月廿八日　朝倉　周威

◎大正二年一月六日　村長事務管掌者　郡書記　高村　金八

◎自大正二年一月九日　至〃二年二月廿六日　竹崎　作馬

◎自〃二年二月廿五日　至・六年二月廿四日　門脇　恒実

◎自〃六年三月十六日　至〃八年十二月卅一日　門脇　恒実

◎自〃九年一月廿一日　至〃十一年十月卅一日　久保　英気

◎自〃十一年十一月十六日　至〃十一年十二月廿七日　久保　英気

◎自〃十二年二月一日　至〃十二年七月十三日　村長臨時代理　宮地　良致

◎自〃十二年七月十三日　至〃十四年二月十日　宮地　良致

◎〃十四年三月十九日　至昭和四年三月十九日　久保　英気

◎自昭和四年三月二十日　至〃五年十二月六日　安松　良曠

◎自〃五年八月廿六日　至〃五年十二月六日　三浦　定夫

◎自〃五年十二月八日　至〃九年十二月七日　崎田　久森

◎自〃九年十二月八日　至〃十二年一月卅日　崎田　久森

◎自〃十二年三月廿一日　至〃十六年三月二〇日　野島　信豊

◎自〃十六年三月三十日　至〃二十年三月廿九日　丁野　武茂

◎自〃廿年五月十三日　至〃廿一年三月廿八日　秋山　正隆

◎自〃廿一年四月一日　至〃廿一年十一月　鈴木　友茂
（翼賛壮年団長に就任経歴のためマッカーサー指令による追放令により退職）

◎自〃廿二年二月五日　至〃廿三年十二月　三浦　恒

◎自〃廿四年一月廿七日　至〃廿八年　秋山　重実

◎自〃廿八年二月〇〇日　至閉村迄　秋山　重実

歴代名誉助役

◎明治廿二年五月廿三日　森下　加米

◎〃廿三年一月一六日　橋本　幸弥

◎〃廿七年二月　佐々木浜五郎

◎〃三十年八月十一日　森　喬木

◎〃卅二年四月一日　大松　充盛

◎〃卅三年四月二日　朝倉　周威

◎〃卅七年四月六日　永野　覚次

◎〃卅七年八月十一日　宮内　鶴次

◎〃卅七年十二月廿八日　大坪　賀秀

◎〃四二年一月八日　朝倉　周威

◎〃四四年十月廿六日　今西　直猪

◎大正二年三月卅一日　臨時　久保　英気

◎〃二年五月廿三日　久保　英気

◎〃六年六月九日　久保　英気

◎〃九年四月十日　森　末永

◎〃十一年十二月十四日　森　末永

◎〃十二年二月六日　武市　靖意

◎〃十二年十二月十三日　小笠原広実

◎昭和二年十二月十三日　小笠原広実

◎〃四年四月一日　大松　盛亘

◎〃五年十二月十六日　佐々木高晴

◎〃七年九月一日　丁野　武茂

◎〃八年一月二三日　豊永　清晴

◎〃十一年二月十三月　秋山　徳伝

◎〃十五年二月十七日　秋山　徳伝

以後職制変更により第一第二助役となる

歴代有給助役

◎明治廿二年十一月十五日　秋山勝五郎

◎〃廿六年十一月廿九日　秋山勝五郎

◎〃卅年八月卅日　朝倉　周威

◎〃卅三年四月二日　橋本　幸弥

◎〃卅六年四月七日　大坪　賀秀

◎〃卅七年十二月廿八日　今西　直猪

◎〃四十年二月四日　橋本　勝茂

◎〃四一年九月十九日　宮内　忠成

◎〃四四年五月一日　佐々木高晴

◎〃四五年四月一日　森　末永

◎〃大正二年五月廿三日　田内　豊

◎〃三年九月十二日　秋山　氏好

◎〃七年九月廿一日　原　桝茂

◎〃十年四月廿二日　三浦　定夫

◎〃十二年九月廿日　大坪　茂臣

◎〃十三年七月十四日　丁野　武茂

◎〃十五年五月十八日　大松　盛亘

◎昭和四年四月六日　佐々木高晴

◎〃五年十二月十六日　近藤泰次郎

◎〃六年十二月七日　丁野　武茂

◎〃七年九月二日　小笠原広信　小笠原一英

◎〃八年一月廿三日　上西　菊長

◎〃十年十二月廿五日　小笠原豊晴

◎〃十二年九月三日　久保　隆盛

◎〃十三年十一月二日　寺尾　茂喜

◎〃十八年十一月三十日　（一助）秋山　正隆

◎〃十九年十月二三日　（二助）岩戸　武清

◎〃二一年四月一日　（一助）寺尾　茂喜

◎〃二一年四月七日　（二助）長野　政高

◎〃二三年十一月十七日　（一助）宮内　正章

◎〃二五年四月七日　（二助）長野　政高

◎〃二七年十一月十七日　（一助）宮内　正章

◎〃二九年四月七日　（二助）長野　政高

歴代収入役

◎明治廿二年六月三日　久保　信馬

◎〃廿二年九月十三日　佐々木浜五郎

◎〃廿六年四月廿一日　久保　信馬

◎〃廿七年一月廿九日　橋本　幸

◎〃卅一年二月九日　橋本　幸弥

◎〃卅三年四月一日　宮内　鶴次

◎〃卅六年五月五日　久保　英気

◎〃卅八年二月廿二日　門脇　恒実

◎〃四一年九月十五日　橋本　勝茂

◎〃四四年九月廿日　左々木正吉

◎大正二年一月十一日　佐々木正吉

◎〃二年五月廿六日　佐々木正吉

◎〃四年四月六日　佐々木高晴

◎〃八年四月六日　佐々木高晴

◎〃九年三月四日　小笠原広実

◎〃十二年十二月十四日　秋山　徳伝

◎昭和二年四月一日　佐々木　享

◎〃三年五月一日　丁野　武茂

◎〃五年十二月十六日　丁野　武茂

◎〃六年十二月七日　佐々木　鷹

◎〃十年一月四日　小川　徳繁

◎〃十二年九月十六日　佐々末正吉

◎〃十八年十一月三十日　宮内　正章

◎〃二十年五月廿日　橋本　幸恵

◎〃二一年四月一日　宮内　正章

◎〃二三年十二月一日　橋本　幸恵

日村長西豊永役場へ合併に　員会

人口の半数以上をしめる婦　ります。
この間創立以来「洗い張りからつぎ洗濯をし
在生徒数も六十名居ります
ましても学校で生徒の手で
生も百七十二名を出し、現
の台木の上によき種類の穂
をついで根もとより育成し

がかりの節は是非
下さいませ。
三名が寄宿いたして教師が一緒に居りますから御利用下さい。

に彼に[illegible]したのである。彼は全くびつくりした。まさか自分が美人から

首ふつて子馬かけゆく春の道
暮れなずむ夏のくりやに夕仕度
道ばたに夕月あびる夏の草

新村發足大豊村に栄光あれ

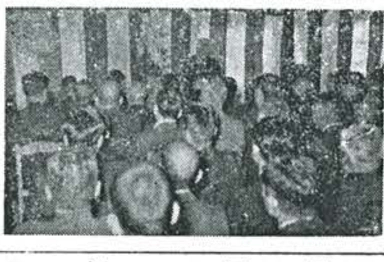
三月卅一日開村式挙行

四箇村合併により旧本村役場を本庁とする大豊村は三月卅一日、役場正面入口に木の香も新たに墨痕あざやかな大豊村役場の標札が掲げられた。

同日、各村の閉村式後、同会場に於て嶺東四村民に新しい建設のいぶきを与え新村史の一頁をかざる開村式が挙行された。

高木元東豊永村長、元西豊永村長、北村元天坪村長秋山元大杉村長その他各村有志、各種機関、団体代表者等百数十名列席のもとに午後二時三〇分、宮内元助役の開式の辞ありて楠島神官により招神、開村祝辞、玉串奉典が行なはれ新村長職務執行者秋山重実氏の式辞、旧各村長を代表し高木元東豊永村長の融和によって健全な村を作りたい旨の挨拶ありついで元大杉村会議長、小笠原清浩氏は旧各村議会を代表し、和による新村建設を強く力説しついで森山茂貴、西谷昇氏等の祝辞ありて送神の儀を行い閉式した。

つゞいて大豊村中央公民館に於て祝賀会が催され四[illegible]民代表の親睦交換が行なはれ盛会裡に散会した。



（写真は開村式場）

新村の暫定人事異動を発令

新村発足に伴う人事は新村長ができるまでの臨時措置として三月三十一日附で発令されたが幹部の異動次の通り、

▼大豊村事務吏員に任命する（以下三名同文）

▼大豊村東豊永支所長勤務を命ずる　小笠原伊豆男

▼大豊村西豊永支所長勤務を命ずる　小笠原薫光

▼大豊村天坪支所長勤務を命ずる　岡林政美

以下は旧村村長、助役、収入役に対するもの

▼大豊村事務嘱託を命ずる

（旧天坪村長）北村晴喜
（旧西豊永村長）豊永利男
（旧東豊永村長）高木定盛
浜田茂美
岡林義彦
山中万石
都築芳計
大地寿穂
西村泰登
宮内正章
長野政高
橋本幸恵

各村首脳者会議開催大豊村長職務執行者に

大杉村長 秋山重実氏

三十日午前十時、四箇村村長、助役等参集し、新村の人事関係その他に付、協議したが新村長ができるまでの村長職務執行者に秋山村長が選任さ[illegible]

★

大豊村部落別戸数人口

大杉地区

部落名	戸数	人口
杉	136	566
小川一	37	172
小川二	34	128
枯谷	15	76
津家	41	193
高須	87	373
日浦	70	359
大王上	36	155
大王下	76	401
葛原	70	346
川口南	27	129
桧生	14	72
式岩	10	55
穴内一1	36	220
穴内一2	23	133
穴内二	63	304
穴内三	60	283
和田	48	270
目付	31	141
磯谷	35	156
尾生	46	235
谷一	11	48
谷二	22	106
川口	74	323
一の瀬	50	270
三谷	63	360
中央	75	384
刈屋	65	300
中和	54	136
仁尾ケ内	45	229
計(30)	1.453	7.023
合計	4.725	23.280

東豊永地区

部落名	戸数	人口
大平	31	159
大滝	33	189
落合	74	289
川井	82	395
高原	15	70
中内	33	160
野々屋	51	279
土居	41	235
久生野	54	250
大畑井	53	269
沖	9	69
陰	28	153
三谷	28	171
柚木	82	410
三津子野	31	184
怒田	75	371
南大王	30	138
川又	10	29
八畝	52	300
立野	20	95
西川	34	188
粟生	44	232
下土居	101	425
八川	35	223
筏木	23	119
岩原	112	668
発電所	16	59
営林署	20	93
計(28)	1.217	6.222

西豊永地区

部落名	戸数	人口
下ノ土居	37	178
佐賀山	57	277
上東	38	209
中屋	18	73
黒石	60	245
東庵谷	61	355
西庵谷	46	265
舟戸	82	305
大田口	87	354
石堂	17	97
西梶ケ内	52	302
奥大田	48	227
西寺内	76	371
東寺内	69	379
安野々	32	169
東梶ケ内	20	123
西久保	21	128
川戸	64	286
連火	31	155
下桃原	33	207
上桃原	59	376
永淵	49	293
柳野	11	55
大砂子	74	410
大久保	66	328
計(25)	1.206	6.172

天坪地区

部落名	戸数	人口
北川一区	47	231
北川三区	51	227
久寿軒	78	366
馬瀬	117	523
[illegible]峰	53	239
本村	81	357
戸手野	46	189
河の川	87	418
繁藤	118	558
樫谷	59	281
穴内	73	296
北滝本	39	178
計(12)	849	3.863

面積

村名	面積（Km²）
東豊永	91.96
西豊永	58.3
大杉	134.2
天坪	75.27
合計	359.73

4月30日 大豊村々長選挙

立候補者告示　四月二十日

5月5日 大豊村議会議員選挙

立候補者告示　四月二十五日

定員
第一投票区　七名（前東豊永村）
第二〃　七名（前西豊永村）
第三〃　八名（前大杉村）
第四〃　六名（前天坪村）
計　二十八名

旧村別選挙有権者数（30年2月8日現在）

村別	男	女	計
東豊永村	1.842	1.889	3.731
西豊永村	1.679	1.795	3.474
大杉村	2.008	2.073	4.081
天坪村	1.126	1.166	2.292
計	6.655	6 923	13.578

役場の設置

三月三十一日大豊村役場支所等の設置について次の通り告示された。

事務所　大豊村役場（大豊村高須二三一）
支所　東豊永支所（大豊村大滝）
支所　西豊永支所（大豊村西土居）
支所　天坪支所（大豊村馬瀬）
出張所　立川出張所（立川元出張所）

村長職務執行者更送

元助役宮内氏就任

大豊村長職務執行者秋山重実氏は新村村長選挙に出馬のため去る十一日退職した。後任（大豊村長職務執行者職務代理者）は同日、本役場に旧各村長（嘱託）支所長等会同じ協議の結果嘱託（元助役）宮内正章氏が推挙を受け受諾した。

★
★
★

大杉短信

合併の恩恵!

新村内えの電報は料金が安くなつた

自村以外えの電報は普通電報和文一〇字まで六〇円であるが四村合併により東西豊永、天坪は同一市町村の市内電報（和文一〇字まで三〇円）となり村当局でも見逃されていた合併による利益がもたらされる訳である。

新村の同字名変更を申請

村事務当局では新村の同字名につき之れが変更方を県知事宛上申した。

▼旧天坪村穴内は
大豊村上穴内に変更
（旧大杉村穴内あり）

▼旧西豊永村下土居は
大豊村西土居に変更

▼旧東豊永村下土居は
大豊村東土居に変更

新村の農業委員え小笠原清浩氏外四名

大杉村より出る新村の農業委員会委員は三月三〇日午後一時より公選委員の互選によって次の四名が決定した。

（小笠原氏）

新委員は小笠原清浩、内田長五郎、森下勇、松岡春美の四氏。

新委員の任期は町村合併促進法第九条の議員の任期定数に関する特例により昭和三十一年三月三十一日迄であって定数は十五名である。

十五名の内訳は前東豊永村四名、前西豊永村四名、前大杉村四名、前天坪三名

新村え送る教育委員秋山正隆氏に決る

合併により教育委員は各村委員より一名宛、選出することになり昨三十日、公民館に於て、野島信豊氏、小笠原清浩氏、鈴木友茂氏森下勇氏、秋山正隆氏等五委員、長野教育長、村田事務局主事等参集、本村最終の教育委員会を開催し、新村え秋山委員長を選出に決定した。

（秋山氏）

村連青団長改選

都築幹夫君就任

村連合青年団では三月廿六日中央公民館で役員会を開催、秋山主儀団長の任期満了により団長以下全役員の改選を行いそれぞれ次の通り決定、その他産業部指定発表大会等を協議し午後四時閉会した。

▼団長、都築幹夫。副団長、石川靖朗。会計書記平尾俊一郎。文化部長小笠原長猪、体育部長秋山主儀。家政部長大坪みのり

嶺連評議員　松村佳景　北村秀夫

巨杉俳壇

大杉青年高等学院

川ばたの水にうつりし赤椿　幸盛
ねこやなぎそよ風になびき水温む　幸盛
雪とけて遠くかすむや春近し　豊子
椿の花が咲いたけど私の心はまだ咲かない　正清
春近し香り流れる梅の花　照子
春近し蝶舞いおりておどるかな　酒造夫
春近し嫁入りそうどうおさまった　正清
寒空にあかいろみさお寒椿　静子
春が来たもやの中からホーホケキヨ　登
せせらぎでうぐいす鳴いて春近し　栄
春近し麦の青さが目にしみる　幸盛
鍬打ちし手に白椿持ち帰る　たけし
椿咲く峠の道で別れけり　たけし

巨杉廃刊の御知らせ

本紙は昭和廿八年十一月創刊、上意下達、下意上達の旗幟をかゝげ自来、公平無私不偏不党をモットーとして村行政の助長滲透にまた一面村民の機関紙としていささか乍らも弘報使命をつくして参りました。此の間、巨杉育成に関し村民の皆様よりは絶えず種々有益な御意見を賜り、秋山舘長以下私共は之れを基調とし順次改善に努め拙劣ながらも漸くにして一応独自の体裁を整え残るは記事内容の整備段階にありました。今回四村合併により大豊村が創設せられ、これに伴い廃刊する事になりました。此処に格別の御協力を賜りました各部落駐在員、ニュース班の方々並びに村民の皆様の御支援に感謝の意を表し廃刊の御知らせを申し上げます。

大杉公民館総務部

館報 巨杉
発行所
高知県長岡郡
杉村公民館
電話杉1番
印刷所
陽社印刷
（無料配布）

議会録音

五、〇〇〇、〇〇〇円
二、立川、穴内教員住宅
①立川一、〇〇〇、〇〇〇円
②穴内五〇〇、〇〇〇円
三、立川刈屋公民館
一五〇、〇〇〇円

あるに、直面すれば旧村住民の六割以上の意見により分村するものとする
六、右記事項は他三村と接衝実現せしむる事により合併を承認する
昭和三十年一月二十[illegible]日

大杉出身者リレー

次回は高知県薬剤士会長「秋山勇」氏へ

郷土の發展を祈りて

国警、高岡警察署長　松村義喜

〃廿年任警部、自後山田警察署長、高吾地区警察署長、高知県本部特別捜査班長、同本部鑑識課長、昭和二六年、任警視、二八年十一月、高岡